



# No.137



アトリエで作業中【りあんの「Sora」】



クッキー作り【りあんの「Sora」】



夏まつり【いすみ学園】



外作業班【いすみ学園】

## INDEX

令和5年度 第1回総会……………	2	人権擁護委員会「じんけん Board」……………	6
第17回 東京大集会……………	3	施設紹介「りあんの「Sora」」……………	8
令和5年度 第1回新任職員研修会 報告…	4	施設紹介「いすみ学園」……………	9
GHNW 委員会情報交換会……………	5	リレーコラム、編集後記……………	10

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ(<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>)からご覧いただけます。



# 知的発達障害部会 令和5年度 第1回総会

広報委員会 松沢 一樹

令和5年5月31日（水）東社協知的発達障害部会において令和5年度第1回総会が行われました。

## 【行政説明】

東京都における障害者施策について、東京都福祉保健局障害者施策推進部より説明がありました。

### 1. 主要事業について

- (1) サービスを担う人材の養成・確保関係事業
- (2) 地域移行促進コーディネート事業
- (3) 都外施設入所者地域移行特別支援事業
- (4) 障害者地域生活移行・定着化支援事業
- (5) 障害者支援施設等におけるデジタル技術等活用支援事業の実施について
- (6) 障害者支援施設等支援力育成派遣事業
- (7) 障害福祉サービス事業所等の施設整備費補助事業について
- (8) 障害者支援施設等におけるリハビリテーション職員配置促進事業について

### 2. 新型コロナウイルス感染症対策等について

新型コロナウイルス感染症の類型変更に伴う療養期間の考え方等について

### 3. 連絡事項等

- (1) 令和5年度東京都福祉保健基礎調査実施のお知らせ
- (2) 施設・事業所における事故等防止対策の徹底について
- (3) 施設・事業所における虐待防止体制の整備の徹底について

上記の件について各担当から説明がありました。

## 【議決事項】

議決事項は、「令和4年度事業報告について」「令和4年度会計収支決算報告および監査報告」についての二議案でした。

「令和4年度会計収支決算報告及び監査報告」では、令和4年度施設部会特別活動拠点区分決算を基に説明がありました。全体としては赤字決算となっているものの、これは前期末までの繰越金を計画的に使用したためとの報告がありました。

これらの議決事項について、会場・オンラインで過半数の承認を得られたため、可決されました。

## 【報告事項】

一つ目に、令和5年度事業計画について、年間予定、予算、役員名簿について報告がありました。各専門委員会からの活動目標と令和5年度活動日程について報告がありました。

二つ目に、本人部会から当事者代表として日常生活での悩みなど報告がありました。

三つ目に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類になることに伴い感染症対策衛生用品の備蓄終了について報告がありました。

## 【記念講演】

中央情勢報告 講師：白石孝之氏（社会福祉法人彩明会 理事長）

白石氏は日本知的障害者福祉協会政策委員会副委員長、埼玉県発達障害福祉協会副会長の立場から令和5年度の報酬改定へのロードマップの説明などこれからの障害福祉サービスについてご講演くださいました。

なかでも国連の障害者委員会から日本政府への初審査の総括所見（勧告）が発表されました。障害児・者の施設収容廃止（脱施設化）を求め、地域で他の人と対等に生活するための支援に予算配分することを求められていると報告がありました。勧告には法的拘束力はないものの日本政府は今後の法改正などでこの勧告に沿った対応を迫られているとのことでした。



# 第17回 東京大集会 「生活の場の確保について」

広報委員会 小川 毅

今年で17回目となる東京大集会在、8月26日(土)13:00~16:00にYoutubeライブで配信されました。新型コロナが第5類に分類されてから初の開催となる今回は、登壇者や役員等会場からの参加者は新宿区にある家の光会館7階コンベンションホールに参集し、ハイブリット形式での開催となりました。

はじめに実行委員長の小池 朗氏より、開会挨拶がありました。昨年、障害者権利条約について国連障害者権利委員会から日本政府へ「障害者が居住地及びどこで誰と地域社会において生活するかを選択する機会を確保し、グループホームを含む特定の生活施設で生活する義務を負わず、障害者が自分の生活について選択及び管理することを可能にすること」が要請されたことにも触れられ、今回の東京大集会では、多様な選択肢の中から自ら選択することの大切さを伝えるとともに、本人の障害や家族の高齢化等々の課題を通して、本人のより良い暮らしを一緒に考えていきたいと趣旨説明がされました。

続いて各団体からの発表が順に①東京都手をつなぐ育成会②日本ダウン症協会③東京知的障害児・者入所施設保護者会連絡協議会④東京都自閉症協会⑤東京都発達障害支援協会⑥東社協 知的発達障害部会の計6団体により行われました。ご自身の生活の様子や社会への要望、施設入所者の

ご家族の声、相談支援の事例など、様々な発表がありました。

その後に行われたパネルディスカッションでは、東京都議会主要5会派(自民党、都民ファーストの会、公明党、共産党、立憲民主党)の方々が登壇され、「生活の場の確保」について、それぞれの立場から意見や取り組みについてのお話がありました。

最後に主催団体よりアピール文の発表があり、閉会となりました。アピール文の表題4点は以下の通りです。

- ① 知的・発達障害児・者の人権を守り、権利を擁護してください。
- ② 知的・発達障害児・者の暮らしの場を抜本的に整備してください。
- ③ 障害者が安心して暮らせる仕組みを作ってください。
- ④ 障害者への理解促進及び差別解消のための東京都条例の精神が広く都民及び民間事業者理解されるよう、普及に努めてください。

今回の東京大集会の様子は専用ページにてオンデマンド配信を予定しています。後日、東社協事務局よりご案内がありますのでそちらで改めてご確認をお願いします。



# 令和5年度 新任職員研修会 報告

研修委員会 安藤 修

## 『初めに』

今年度より研修委員会の委員長を務めさせていただくことになりました。令和5年度も引き続き、新任研修、中堅研修、リーダー研修等を中心に、組み立てて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

6月2日(金) 令和5年度新任職員向け研修を開催しました。講師は、日本福祉大学福祉経営学部 教授、並びに社会福祉法人睦月会・理事長の綿 祐二氏です。綿氏による新人職員研修は、今回開催した6月と、来年の2月の、計2回の開催になります。

今回は令和5年度入職の方を中心に約100名の方が参加されました。特に新卒の方は、福祉専門職としてスタートして2か月が過ぎた頃、生活リズムの変化・職場環境・人間関係等、色々な場面での慣れない日々を過ごしているんじゃないでしょうか。

参加者の中には、今まで福祉を学んで来た方、今学んでいる最中の方もいると思いますが、互いに仲間と一緒に考えながら学ぶ場として参加し、明日からの支援に生かしてほしいと思いました。

今回、私自身が研修委員会として、事前に綿氏と初めて打ち合わせを行った際、研修の進め方や旬な話題についてお話を伺ったのですが、その際にまるで大学で講義を受けているような錯覚になるほど、綿氏の言葉一つ一つに心を引き込まれるような感覚を覚えました。素直にもっと話を聞いてみたいという思いになりました。

## 『本人中心の支援とは』

まず「障害者の捉え方」として、自閉症...ダウン症...アスペルガー症候群...という障害特性の括りではなく、Aさん、Bさんという「人」として接していますか？関わっていますか？、という視点を全体共有し、不自由さの理解を考えることから講義が始まりました。

その中で、バイスティックの7原則を用いて、「人として見る」「価値観を受け入れる」「情緒をコントロールする」「ダメ！と、審判してはだめ」「固定概念は持たない」「個人情報保護の規定を確認しておく」「～しなきゃいけない、～するべき→そうではない」「良い環境を整えていくこと、近づけていくこと」等、ポイントとなるキーワードを、一つ一つわかりやすく丁寧に、教えていただきました。

途中、国連の権利条約について話題があがり、インクルーシブ教育、分離、統合、包括と...これから



の時代についても講義が広がりました。

## 『グループワーク』

各テーマに沿ったグループワークでは、全体的に参加者一人一人がきちんと意見を述べている印象が伺えました。また、綿氏の言葉一つ一つが参加者の皆さんに、深く印象に残り、その言葉の意味・本質について議論しているグループが多かったです。

中でも、私が印象に残ったグループワークは「新型出生前診断」、「わがままと自己決定はどこが違う?」、「利用者のニーズを決めるのは?」について考える場面でした。何が良い悪いではなく、どのような考えを持っているか、感じているか考え、悩み苦慮しながら討議していました。

## 『最後に』

ここでは、一部の研修紹介になりますが、研修を通して綿氏は常に、新任職員の皆さんへ何が良い悪いではなく、正解不正解でもないこと。考える事、絶えず学んでいく勉強していくことが大事であること。また、「憧れの先輩を作る」「自分磨きが大事」「自分の経験を豊かに」日々の業務を楽しんで、豊かな生活をしてほしいともおっしゃっていました。その言葉の中には、新任職員の皆さんには「本当の障害福祉を学び」「ゆっくりと本物に育ってほしい」という願いが込められているのだと感じました。

## 『参加者アンケートより』

参加者からは、「もっと聞きたい!」「もっと話をしてみたい」「言葉の意味を知ることができた」等の声が多数聞かれました。

また来年2月に新任職員の方々とお対面にて、笑顔でお会い出来ることを楽しみにしています。



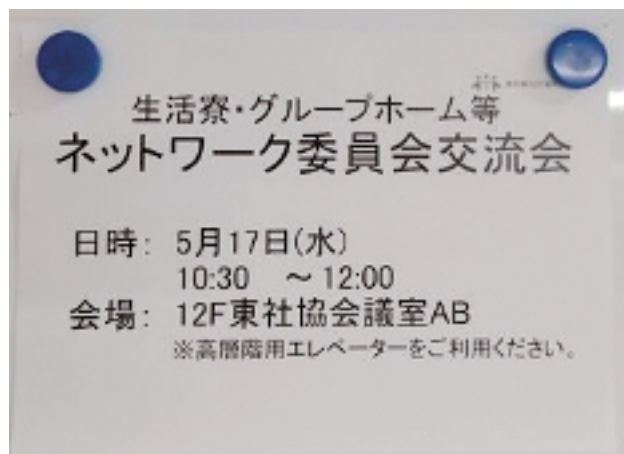
## グループホームネットワーク G H N W 委員会情報交換会

GHNW 委員会 紀伊 良彦

令和5年5月17日にセントラルプラザ12階会議室にて、久しぶりに対面での情報交換会を行いました。今年度は久しぶりの対面での開催ということもあってか、17名の参加と少し寂しい印象はありましたが、幹事も含め全体では21名での情報交換会となりました。あらかじめ参加者には、①高齢化対応②中軽度・企業就労対応③発達障害等支援困難のどの話題で情報交換をしたいかを伺っていたので、その希望に沿ったグループに分かれました。皆さんの一番の関心事はやはり高齢化対応でした。

高齢化対応については、介護保険との連携と課題、利用者対応が増える中での人材不足、一人での勤務が多いGHでの人材育成の難しさ、後見人との連携や課題など様々な課題、現状について意見交換をすることができました。人材確保の難しさの違いや施設の数など、区部と市部での違いも話題に挙がっていました。

中軽度・企業就労対応では、勤務時間・生活習慣の違う利用者が同一のGHで共同生活するときのトラブル解決についての話題が出ました。ある程度年齢を重ね、また長期に就労継続している方は、長年培った生活パターンができており、このパターンを変えるのは大変困難であること。特に勤務時間が一般の日勤者と比べてずれている場合は、生活音により他の利用者に迷惑が及ぶ場合もあることなどの事例についても意見交換を行いました。生活音に配慮するよう対応しても根本的には生活パターンを変える必要があるため、実現が困難な場合がほとんどですが、同一事業所のユニット間で



の利用者の移動により解決した事例もありました。

発達障害等支援困難では、区型や市型のGHならではの困難や地域生活支援型の入所施設の課題への意見交換など、支援困難な利用者ケースの話よりもハード面についての意見交換を中心に行いました。

1時間30分程度の短い時間でしたが、参加された方は久しぶりの対面での意見交換等で活発な話し合いができていました。WEBと違った間や相槌、空気感など久しぶりに体感して対面での意見交換の良さを感じました。今後もGHNW委員会では、このような場の設定や行政説明などを行う予定でありますので、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。よろしくお願いいたします。



# じんけん Board



わたしの



支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

職員さんがショートステイ送迎後に「車の臭いが気になる。いろんな方が乗るので」と、消臭剤をかけてくださいました。

エプロンとタオルを畳んでいると、利用者さんが手伝って下さいました！とってもきれいでした！

利用者さんが他のご利用者さんの誕生日の日、「Happyバースデー」を歌ってあげている姿ににやり、とても素敵でした。

利用者さんが食事前にエプロンを自ら進んで他の利用者へ配って下さいました。誰がエプロンを使っているか把握しており、スムーズに配っていただきました！ありがとうございます！

企画していた利用者との外出が雨で中止になりそうなところ、職員さんが車を出して下さいました。おかげで無事にお買い物と昼食を食べることが出来ました！ありがとうございます。

ご利用者の誕生日を気に掛けて、音楽を流して祝っていた職員さんのにやりです！

職員2名が、利用者が食事前に落ち着かないときに、歌を歌いながら手遊びをして、気持ちを切り替えようとしている姿ににやり！

他利用者が落として散らばってしまったパズルを、近くにいた利用者2名が何も言わずとも拾い集めてくださいました。いつも周りをよく見ているお二人だからこそ、すぐに周りの人に手を差し伸べてくれます！

毎月本人部会に参加している職員さん。ご利用者がやりたいことをしっかりと全体に伝えるような工夫をされていてとても素敵だなと思いました。

活動室のホワイトボードの日付と曜日を書き換えてくださる利用者さん！いつも助かっています。ありがとうございます！



支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

最優秀作品

「また同じ」  
毎日だけ  
今を見て

作：ちえき

作品背景

毎日同じ行動をする人に、また同じことをしていると考えたり、ルーティンと思うことはありますが、それでもその中にある小さな今の変化を見る、と自分に対しての言い聞かせです。

優秀作品

やれること  
まだあるはずだ  
支援力

作：おもち

作品背景

泣いている、叫んでいる、落ち着かない利用者に対して、すぐに「頓服は？」と確認するのは違うと思います。しっかりと行動分析をして、客観的にみて、対応策を考えることが大切だと思いました。

入選作品

帰り道  
ふと思いつく  
あの支援

作：ゆきんこ

作品背景

夏休み期間は日中ずっと利用者が施設にいるので、職員間で支援の振り返りがし難い現状があります。帰り道くらいは一人でじっくり…。少しでも考えられたら次の日に共有して繋がられるのでは。悪かったことは反省し、良かったことは伸ばせられるように…。そんな思いから作りました。

伝わります  
言葉がなくても  
その空気

作：雲

作品背景

こちらが緊張していれば、相手も緊張します。こちらが力が入れば、あいても力が入ります。支援者として、演技も大切な場面はありますが、悪循環にならないよう、日頃から見せ方は気をつけたいと思いました。

『えらいね』を  
『ありがとう』へと  
変換す

作：HK合作

作品背景

利用者がスタッフの介助なしに身の回りのことをできるとき「えらいね」と言うスタッフがいますが、「えらいね」という言葉は上から視線を感じます。えらいと評価するのではなく、「ありがとう（ごさいます）」と感謝を利用者に伝える方が、相手を尊重することに繋がるのではないのでしょうか。

広げてく  
一人ひとりの  
可能性

作：たー

作品背景

その人のライフステージや状況によってアセスメントを繰り返し、新しい視点を持ちアプローチをしていく。支援がマンネリ化してはいけないと感じた。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

# 施設紹介

## りあんの「Sora」

施設長 松崎 規子

私たちは、東京都の端にある八王子市で活動している特定非営利活動法人りあんです。

八王子市は高尾山が有名な自然豊かな町で、私たちがおこなっている「就労継続支援B型作業所のSora」と「グループホームのそらのいえ」も、自然豊かな環境です。

そんな自然豊かな環境の中で、障がい者も健常者と同じように、のびのび楽しく生活できるようお手伝いさせていただけたらなと思い、みんなで努力しています。

私たちは、障がい者にとって豊かで充実した地域生活が実現できることを目的に、日々励んでいます。

### ○就労継続支援B型Sora

Soraでは、「パン・クッキー等」を作っているベーカリーと、「手工芸・絵画等」を制作しているアトリエがあります。

ベーカリーでは、道の駅、学童や高校等に納品したり販売したりしています。

販売していると直に反応を聞くことができ、ありがたいことに「安い」「美味しい」と喜んでいただけ、毎回販売終了時にはほぼ完売になります。

アトリエでは、いろいろな作品を作っているのですが、手工芸の組紐は、八王子道の駅での雑貨販売では、何度も一位を取っています。

絵画もおこなっているのですが、とても驚かされています。

私たちには思い浮かばない発想や根気のいる絵を描く利用者もいるからです。

他の作業を見ていると思うことですが、人には個々にいろいろな能力が備わっているもので、障がいがあるなしに関係なく、人にはたくさんの可能性があるのではないのでしょうか。

また、Soraではお昼ご飯は毎日従業員の手作りで、1食100円で提供しています。

利用者さんにはとても好評で、お昼ご飯を食べたいために通う利用者さんもいるくらいです。

Soraでは、「節分」「バーベキュー」「お誕生日会」「忘年会」等、毎年いろいろなイベントもおこなっているのですが、イベントになると、いつも以上に表情が明るくなります。

利用者さんの楽しみのひとつになっていればと私たちが喜んでいきます。



アトリエで作業中



クッキー作り



完成した組紐



忘年会



# 施設紹介

## いすみ学園

主任 岩瀬 祐三子

### <いすみ学園概要>

いすみ学園は千葉県南房総の丘陵と、緑豊かな田園地帯が織りなす自然の中に位置します。成人となった自閉症を中心とした方々の、穏やかな暮らしの場を夢見て昭和59年に創立されました。

「自閉症を中心とした知的障がい者の明るい未来を拓く」という学園の基本理念を元に、「豊かな自然の中で社会に生きる障がい者の良き隣人として利用者と歩み続けること」を目標とし日々支援しています。

### <働く機会の保障>

大人として日中は働き、休日は余暇を楽しむことを尊重しています。殆どの方々が学園内の作業班で活動していますが、9名程のグループは地域の水産加工会社に実習形態で活動しています。グループホームの方たちは、地域の商店や工場等で働いています。利用者に働く機会を確保することは創立当初からの方針であり、地域との懸け橋を築き上げてきました。社会との接点と位置付けており大切にしています。

### <介護支援の増加と生産活動の維持>

創立40年目ともなると利用者の平均年齢も高齢となり「介護」支援の増加が現実的な問題です。特に医療行為問題では課題山積ですが、喀痰吸引1号取得者3名に加えて3号研修終了者7名を法人努力で終了したところです。

作業班体制では、介護中心の班（軽作業とリハビリ等）と生産活動を担う班（外作業班、石けん班、食品加工班）と2分化した上で、各班の特色を生かしそれぞれに必要な支援・介護を受けながら日中活動が行えるようにしています。介護に力を入れつつ、生産性の維持を課題として未来に繋げていきます。

### <一番大切にしていること>

それは職種を問わず職員の「優しさと思いやり」が最終的には一番の宝物ということを私たちは知っています。それを維持していくためにも職員間の報連相を日頃から大切にしています。連携と協力関係の成熟を目指した職員集団として人生をサポートしていきます。



石けん班



茶道クラブ



グループ実習班



さをり織り



夏まつり



絵画教室



外作業班



食品加工班（味噌作り）

## 「うれしく感じたこと」

社会福祉法人江東楓の会 第三あすなろ作業所  
施設長 齊藤 誠

施設を運営していく中で、地域の方との関わりがあります。

利用者が通所する際に近隣の方のお宅で不適切な行動があり、その利用者と一緒に施設に来られた事がありました。当然、不快な思いをされて怒っていました。まずは誠意を持って謝罪をして、その後、利用者の特性等を説明させていただきました。話をしていく中で、その方は施設のことを知っており、施設の昼休みの時間に、利用者と職員が近くの公園でバドミントンをしたり、ウォーキングしたりしていることも見かけたことがあると教えてくれました。「大変な仕事だよね。がんばってね。」とねぎらいの言葉をいただきました。

その後、お会いした時に、「持ちつ持たれつだから」と笑顔で声をかけてくれました。その言葉を聞いてうれしく、やさしい気持ちになるのを感じました。もちろん、職員にもその事を伝えました。この件以外にも、地域の中で、利用者が自宅へ帰る途中、てんかん発作を起こして転倒した際に、施設まで送ってくれたり、施設の自主生産品をお店に陳列し販売に協力していただいたりしています。このように地域に良き理解者として存在してくれています。今年度は4年ぶりに施設のおまつりを地域の方をお招きして開催することができました。今後も地域の方との関わりを大切にしていきたいと考えています。

## 編集後記

新型コロナウイルスの感染対策が緩和され、イベントなどが再開されつつある中、利用者様の楽しみと安全のバランスに悩む8月現在。3年ぶりに開催となるイベントも多く、準備の段階からとても久しぶりだな、と感じるとともに、コロナ対策が普通の感覚となっていたことを実感する。

夏休みになり人の動きが多く、コロナの再流行が危惧される中、夏のイベントが無事に終わり、楽しい思い出として残ることを願っている。

(葛飾通勤寮 村上 翔)